



FRONTIER

教育・研究の最前線

地域と共に未来を創る ―熊本・阿蘇「くまもとあか牛プロジェクト」

メディアデザイン研究科 教授 岸 博幸^{さし ひろゆき}

和牛の産地は現在、後継者育成や脱炭素対応、価格低迷といったさまざまな課題に直面しています。特に、熊本県が全国生産量の約9割を占める「あか牛」は特徴の赤身肉が、脂肪の入りを重視する和牛格付け制度の下で評価されず市場価格が低迷したことで生産頭数の減少が進んでいます。

筆者らは、本状況の打破を目的に持続可能な地域社会の実現をテーマに活動している「地域みらいプロジェクト」を通じ、熊本県を立会人に畜産連合会、肥後銀行などと産学官金連携で展開する「くまもとあか牛プロジェクト」を2019年より開始。その成果として本年から「エシカル和牛・くまもとあか牛」の生産と出荷を支援しています。

あか牛は旨みのあるおいしい赤身肉とコクの深いさっぱりとした脂が特徴で、高齢者を含めて市場では近年、高評価を受けています。本活動では生産量増加だけでなく、カシユナツツ由来の飼料を使用した牛のゲップによるメタンガスの削減など、環境負荷の軽減と地域共生に向けた研究を進めています。特にあか牛の繁殖時における放牧は地下水の入口として機能する阿蘇の大草原の維

持に貢献し、農業や半導体などの企業誘致につながっています。あか牛の生産維持は自然環境の保護だけでなく、地域経済の持続可能な発展にも直結しているわけです。

今後は、事業承継課題について地域大学との連携を進め、東海大学九州キャンパスや地元農家、自治体、飲食店と協力しながら着手する予定です。具体的には、「牛3頭から就農し、休暇もとれる区分シェア型の牛舎」の提供を通じて、畜産の未来を担う人材が次世代IoTや環境負荷の低い生産技術を学び、生産から加工、販売と消費者との接点まで触れる機会を作ります。これにより畜産をテーマにした「環境と地域社会、産業の共生」という、具体的な課題解決を通じた都市と地方の関係人口の創出を目指します。

こうした「経済的価値」だけでなく、地域環境の保全や地域貢献などの「社会的価値」の向上も含むバランスの取れたウェルビーイング実現には産学官金の現場での連携が不可欠です。引き続き、自治体、企業など興味のある方はプロジェクトにお声がけいただけますと幸いです。